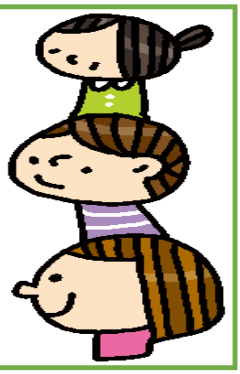
札幌市立北都小学校　学びの支援便り　No.５

あったかほくとっこ



家庭数配付

令和６（２０２４）年　２月２１日発行

自分のよさを信じて伸ばしていけるように

主幹教諭　柳澤　史衣

特別支援コーディネーターとして、保護者の方からお子さんの対応についてご相談いただく機会が多くあります。みなさんそれぞれに悩み、お子さんにとって、どのようなサポートが適切なのかを考え、試し、また方法を考え直し…と、本当にお子さんとよく向き合っていらっしゃることを感じます。保護者の方からの相談により、私たちはお子さんのことをより深く知ることになり、サポートの方向性を一緒に考えることができるため、お話をしていただけることを大変ありがたく思っています。

今回は、より多くの方に、発達障害とサポートについて知っていただきたいと思い、お便りを作成しました。私たち大人はもちろん、子どもたちも、人それぞれの特性を受け止め合い、知り合い、助け合うことの大切さとよさを知ることで、より温かい関係性を作っていけるのではないかと考えています。

子どもたちはそれぞれに、「自分のことを理解してほしい。」という思いをもっているのではないでしょうか。そして、保護者の方々も、周囲の人々に我が子のことを理解して関わってもらいたいという思いがあると思います。

「みんなと同じように」って、何なのでしょうね。みんなが同じように考え、行動するのならば、世の中は作られて行かないのではないかと、私は常々思います。世の中にある仕事には、それぞれの人がもつ得意分野が生かされていて、自分にはできないことを、他の誰かにしてもらう。他の人にできないことを自分がする。そしてお互いに感謝する。そうやって支え合いながら生きていくのではないでしょうか。

だから、みんなと違いがあることを悲観することなく、安心して自分のよさを信じて伸ばしていけるように、といつも考えています。

……

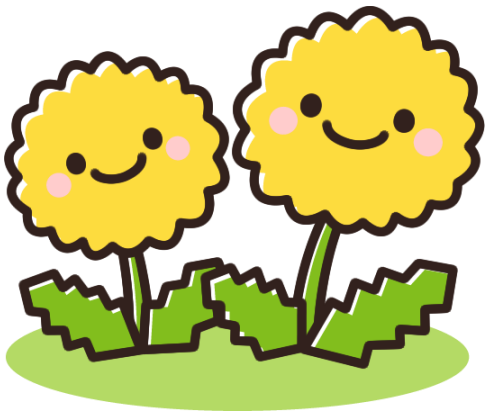
本校には、特別支援学級があります。年度初めに子どもたち向けに「たんぽぽ学級についてのお話☆たんぽぽ Q&A」というおたよりを配付してたんぽぽ学級のことを知ってもらう機会を設けています。保護者の皆様にも、改めてたんぽぽ学級についてお知らせいたします。

特別支援学級でのサポート

たんぽぽ学級担任　髙村亜希子

特別支援学級には様々な特性をもつお子さんがいます。特別支援学級には、それぞれの困りや課題を改善していくために「自立活動」「生活単元学習」「遊びの時間」など通常学級にはない教育活動があります。「自立活動」では、人との関わり方や気持ちの伝え方を学んだり、体を動かして運動機能の発達を促したりします。知的障害特別支援学級では、「生活単元学習」も行っており、算数の内容の「量」や「重さ」などの知識を使いながら調理をしたり、国語で身に付けた「書く」力を使ってお楽しみ会の司会原稿を書いたり、各教科で学習した内容を生活に生かしやすくすることを目的としています。「遊びの時間」では、ルールを守ったり勝ち負けにこだわらず楽しく遊んだりすることができるよう指導します。このように、それぞれの困りや課題にアプローチし、自立を目指すための学習内容がたくさんあります。さらに、特別支援学級では少人数であるため、ひとりひとりと向き合う時間を確保しやすく、また、ある程度学習内容を柔軟に設定できることを生かし、お子さんの習熟度に合わせてそれぞれのペースで学習を進めていくことができるため、確実に学習が積み上がっていきます。

たんぽぽ学級には現在12名のお子さんが在籍しています。前述した活動や日常の指導支援を通して、将来自立した生活ができるように、今できることから少しずつステップアップしています。また、お子さんの実態に応じて交流学級で学習をする「交流学習（教科交流）」も行っています。たんぽぽ学級で大切にしていることは、将来自立した生活をするにあたって、その子に何が必要かを考え支援することです。ひとりひとり必要な支援は違います。お子さんの将来を考えた時に、もし特別支援教育が必要であれば、お子さんのためにもぜひ活用していただきたいと考えています。また、お子さんのことで少しでも気になることがあれば学校や担任に相談してください。ご家庭と一緒に解決策を考え、学校全体でお子さんをサポートしていきます。



発達障害の理解とサポートのために

発達障害とは、脳機能のかたよりがあり、発達の仕方がアンバランスになっている状態です。先天的な脳機能のかたよりによって引き起こされています。本人や保護者の努力不足が原因ではありません。

発達障害は、基本的には ADHD、ASD、LD とそれに類する状態の総称です。

かたよりを直すのではなく補う

発達障害の場合、脳機能のかたよりは生涯続きます。直そうとするよりも、そのかたよりを補ったり、いかしたりして、生活の支障をとりのぞくことに集中しましょう。

ADHD

注意欠如・多動症。不注意、多動性、衝動性が特徴的で、落ち着きのなさが目立つ。周囲の環境を調整するとよい。薬物療法を行うこともある。

ASD

自閉スペクトラム症。対人関係の困難とこだわりの強さが特徴的で、空気の読めない人だと評価されがち。本人やまわりの人が特徴を理解し、生活を調整すると困ることが減る。

LD

学習障害。限局性学習症ともいう。読み書きや計算、会話、推論のうち一部が極端に苦手で、年齢相応の学習能力がなかなか育たない。苦手な部分の支援が必要。

発達障害には、ほかにも知的障害（知的発達症ともいう）や DCD（発達性強調運動症）などが含まれる。DCD は体の動かし方の障害で、書くことの困難につながる。

かたよりに気づく

対応の第一歩は、発達障害に気づくこと。どのような特徴があり、どんな悩みにつながっているか、理解する。

できる・できないを理解する

苦手な面があるいっぽうで、得意な面もあることに意識を向ける。子どもの全体像を理解しようとする。

サポートを受けてがんばる

得意な面をいかしながら、苦手な面はサポートするという暮らし方ができ上がっていく。

できないことを苦にする

読み書きなど苦手な面を気に病んでいると、できないことに意識が向いてしまい、自己否定的になりがち。

訓練して直す

できないところを訓練して直そうとしても、効果が出ない。自信を失い、何ごとも消極的になっていく。

引用：「LD の子の読み書き支援がわかる本」小池敏英著　講談社発行